

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-120439

(43)Date of publication of application : 25.04.2000

(51)Int.Cl.

F01P 11/10
B60K 5/04
B60K 11/04
F02B 29/04

(21)Application number : 10-307855

(71)Applicant : HITACHI CONSTR MACH CO LTD

(22)Date of filing : 14.10.1998

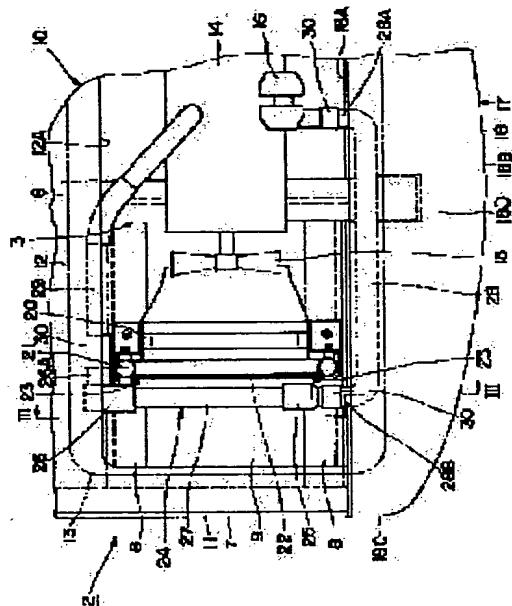
(72)Inventor : SONODA ATSUSHI
NAKAMURA KAZUNORI
TAHARA KOJI
KAWASAKI KOJI

(54) CONSTRUCTION MACHINE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To enhance operating performance without setting back a counter weight by connecting a pipeline with a heat exchanger.

SOLUTION: It is so constituted that an inflow pipeline 28 connecting the turbo-super charger 16 of an engine 14 with the inflow side tank 25 of an inter-cooler 24 is provided by making use of a counterweight 17. By this constitution, since the line can be eliminated out of a space among a radiator 20, an oil cooler 21 and the counterweight 17, the counterweight 17 can be disposed while being moved to a place close to the radiator 20 and the oil cooler 21, the turning radius of an upper turning body can be made small by making the longitudinal length of the aforesaid body short, so that the operating performance of a hydraulic shovel can thereby be enhanced. In addition, the pipeline can be eliminated out of the upper surfaces of the radiator 20 and the oil cooler 21, rear visibility can thereby be well improved with an engine cover 13 made lower.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 16.05.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3481871

[Date of registration] 10.10.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

THIS PAGE BLANK (USPTO)

BEST AVAILABLE COPY

KP0023

4

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-120439

(P2000-120439A)

(43)公開日 平成12年4月25日(2000.4.25)

(51) Int.Cl.⁷

F 0 1 P	11/10
B 6 0 K	5/04
	11/04
F 0 2 B	29/04

識別記号

F I
F 0 1 P 11/10
B 6 0 K 5/04
11/04
F 0 2 B 29/04

テマコト[・](参考)
3D035
3D038

審査請求 未請求 請求項の数 8 FD (全 12 頁)

(21) 出廠番号 特願平10-307855

(22)出願日 平成10年10月14日(1998. 10. 14)

(71) 出願人 000005522

日立建機株式会社

東京都千代田区大手町2丁目6番2号

(72) 発明者 関田 浩

立市浦下十景圖

式会社土浦工場内

(72) 発明者 中村 和則

茨城県土浦市神立

内場工浦土社公社會式

(74) 代理人 10007944

弁理士 広瀬 和彦

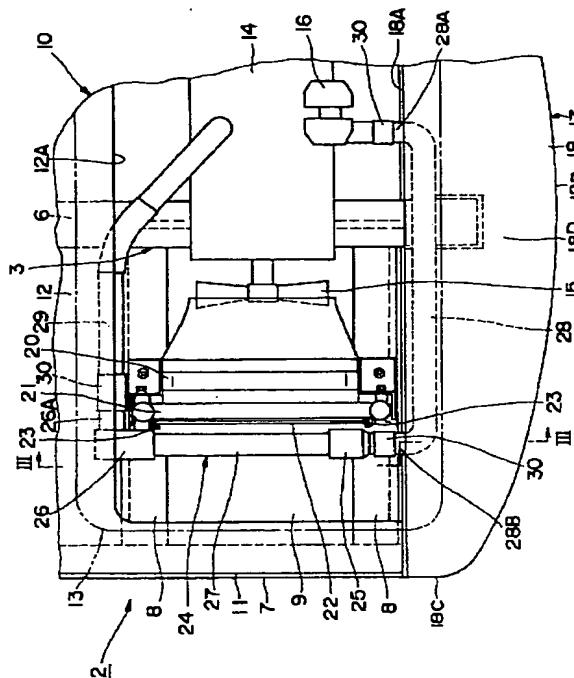
最終頁に統く

(54) [発明の名称] 建設機械

(57) 【要約】

【課題】 カウンタウェイトを後方に移動させることなく熱交換器に配管を接続でき、作業性能を向上する。

【解決手段】 エンジン14のターボ過給器16とインタークーラ24の流入側タンク25とを接続する流入配管28をカウンタウェイト17を利用して設ける構成としている。これにより、ラジエータ20、オイルクーラ21とカウンタウェイト17との間から配管をなくすことができるから、カウンタウェイト17をラジエータ20、オイルクーラ21に近接して配設でき、上部旋回体2の前、後方向長さを短くして旋回半径を小さくでき、油圧ショベルの作業性能を向上することができる。また、ラジエータ20、オイルクーラ21上から配管をなくすことができ、エンジンカバー13を低くして後方視界を良好にすることができます。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 前側に作業装置が設けられたフレームと、該フレームの後側に左、右方向に延びる横置き状態に搭載されたエンジンと、前記作業装置とバランスさせるために前記フレームの後端部に取付けられたカウンタウェイトと、前記エンジンの左、右方向の一方側に位置して設けられた第1の熱交換器と、該第1の熱交換器を挟んで前記エンジンと反対側に位置し該第1の熱交換器の厚さ方向に重ねて設けられた第2の熱交換器とを有する建設機械において、
10

前記第1の熱交換器の幅方向前側を通って前記第2の熱交換器に接続された第1の流体配管と、前記カウンタウェイトを利用して設けられ、前記第1の熱交換器の幅方向後側を通って前記第2の熱交換器に接続された第2の流体配管とを備えたことを特徴とする建設機械。

【請求項2】 前記第1の熱交換器は前記エンジンからの冷却水を冷却するラジエータまたは作動油を冷却するオイルクーラであり、前記第2の熱交換器は前記エンジンに設けられる過給器からの圧縮空気を冷却するためのインタクーラである請求項1に記載の建設機械。
20

【請求項3】 前記第2の熱交換器と第2の流体配管の流入側、流出側との間は、別個の管体を用いて接続してなる請求項1または2に記載の建設機械。

【請求項4】 前記カウンタウェイトは、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物とによって構成し、前記第2の流体配管は前記箱体内を左、右方向に延びて設けられ、両端側が前記箱体の前面板に流入側接続口、流出側接続口として開口したパイプ部材によって構成してなる請求項1、2または3に記載の建設機械。
30

【請求項5】 前記カウンタウェイトは、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物とによって構成し、前記第2の流体配管は、前記箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられた流入側接続口、流出側接続口と、前記箱体内を左、右方向に延びて設けられ、前面板内面との間に該流入側接続口と流出側接続口とを連通する連通路を画成した枠部材とによって構成してなる請求項1、2または3に記載の建設機械。

【請求項6】 前記カウンタウェイトは、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物とによって構成し、前記第2の流体配管は、前記箱体の上面板と前記重量物の上面との間に画成された空間部と、前記箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられ、該空間部に連通した流入側接続口、流出側接続口とによって構成してなる請求項1、2または3に記載の建設機械。
40

【請求項7】 前記カウンタウェイトは少なくとも前面、後面、上面および下面を有する铸造体によって形成し、前記第2の流体配管は铸造体をなしたカウンタウェイトの内部を中空穴として左、右方向に延びて形成され、両端側が前記前面に流入側接続口、流出側接続口として開口した中空通路によって構成してなる請求項1、
50

2または3に記載の建設機械。

【請求項8】 前記カウンタウェイトは少なくとも前面、後面、上面および下面を有する铸造体によって形成し、前記第2の流体配管は、前記カウンタウェイトの前面に左、右方向に延びて凹設された凹陥溝と、該凹陥溝との間に通路を画成し、左、右方向の両側に該通路に連通する流入側接続口、流出側接続口が設けられた閉塞板とによって構成してなる請求項1、2または3に記載の建設機械。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、例えば、ラジエータ、オイルクーラ、インタクーラ等の熱交換器を備えた建設機械に関する。

【0002】

【従来の技術】 一般に、建設機械としては油圧ショベル等の旋回式建設機械が知られており、この油圧ショベルは、下部走行体と、該下部走行体上に旋回可能に設けられた上部旋回体とを備えている。

【0003】 また、上部旋回体は、前側に作業装置が設けられた旋回フレームと、該旋回フレームの後側に左、右方向に延びる横置き状態に搭載されたエンジンと、前記作業装置とバランスさせるために前記旋回フレームの後端部に取付けられたカウンタウェイトと、前記エンジンの左、右方向の一方側に設けられた熱交換器とによって大略構成されている（例えば、実開平2-90321号公報等）。

【0004】 ここで、熱交換器としては、エンジンの近傍に位置し、該エンジンからの冷却水を冷却するラジエータ、下部走行体、作業装置を動作させるための作動油を冷却するオイルクーラ等の第1の熱交換器と、該第1の熱交換器の上流側に重なるように位置し、エンジンに設けられた過給器からの圧縮空気を冷却するインタクーラ等の第2の熱交換器とがある。そして、第1の熱交換器、第2の熱交換器には、それぞれ流入配管、流出配管が接続され、これらの配管は各熱交換器、エンジンの周囲で取り回されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、上述した従来技術による油圧ショベルでは、複数の熱交換器を設けているから、これらの熱交換器に接続される流入配管、流出配管等の多くの配管がエンジン、熱交換器等の周囲に配設される。このため、エンジン、熱交換器等の周囲には、これらの配管を取り回すためのスペースが必要となる。

【0006】 そこで、カウンタウェイトを後方に移動してエンジン、熱交換器の周囲のスペースを広げることが考えられるが、この場合には、カウンタウェイトを後方に移動させた分だけ、上部旋回体が旋回するときの回転半径（旋回半径）が大きくなってしまうから、油圧ショ

ベルの作業性能が低下するという問題がある。

【0007】本発明は上述した従来技術の問題に鑑みなされたもので、本発明の目的は、カウンタウェイトを後方に移動させることなく熱交換器に配管を接続でき、作業性能を向上できるようにした建設機械を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明による建設機械は、前側に作業装置が設けられたフレームと、該フレームの後側に左、右方向に延びる横置き状態に搭載されたエンジンと、前記作業装置とバランスさせるために前記フレームの後端部に取付けられたカウンタウェイトと、前記エンジンの左、右方向の一方側に位置して設けられた第1の熱交換器と、該第1の熱交換器を挟んで前記エンジンと反対側に位置し該第1の熱交換器の厚さ方向に重ねて設けられた第2の熱交換器とを有している。

【0009】上述した課題を解決するために、請求項1の発明が採用する構成の特徴は、第1の熱交換器の幅方向前側を通って第2の熱交換器に接続された第1の流体配管と、カウンタウェイトを利用して設けられ、第1の熱交換器の幅方向後側を通って第2の熱交換器に接続された第2の流体配管とを備えたことにある。

【0010】このように構成したことにより、第2の流体配管を第1の熱交換器の幅方向後側を通して第2の熱交換器に接続した場合でも、第1の熱交換器とカウンタウェイトとの間には配管を通すためのスペースを必要としないから、カウンタウェイトを第1の熱交換器の幅方向後側に近接して配置することができ、建設機械の車体長さを短くすることができる。

【0011】また、請求項2の発明のように、第1の熱交換器はエンジンからの冷却水を冷却するラジエータまたは作動油を冷却するオイルクーラーとし、第2の熱交換器はエンジンに設けられる過給器からの圧縮空気を冷却するためのインタークーラーとしてもよい。

【0012】請求項3の発明は、第2の熱交換器と第2の流体配管の流入側、流出側との間は、別個の管体を用いて接続したことにある。これにより、組立時には第2の熱交換器と第2の流体配管とを管体を介して容易に接続することができる。

【0013】請求項4の発明は、カウンタウェイトは、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物によって構成し、第2の流体配管は前記箱体内を左、右方向に延びて設けられ、両端側が前記箱体の前面板に流入側接続口、流出側接続口として開口したパイプ部材によって構成したことにある。

【0014】このように構成したことにより、第2の流体配管を形成するパイプ部材のほぼ全体をカウンタウェイトの箱体内に収めることができ、カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0015】請求項5の発明は、カウンタウェイトは、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物によって構成し、第2の流体配管は、前記箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられた流入側接続口、流出側接続口と、前記箱体内を左、右方向に延びて設けられ、前面板内面との間に該流入側接続口と流出側接続口とを連通する連通路を画成した枠部材とによって構成したことにある。

【0016】このように構成したことにより、流入側接続口と流出側接続口とに亘り箱体の前面板内面に枠部材を固定することによって第2の流体配管を形成することができる。また、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの箱体内に収めることができ、カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0017】請求項6の発明は、カウンタウェイトは、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物によって構成し、第2の流体配管は、前記箱体の上面板と前記重量物の上面との間に画成された空間部と、前記箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられ、該空間部に連通した流入側接続口、流出側接続口によって構成したことにある。

【0018】このように構成したことにより、箱体内に重量物を充填したときに該重量物の上面と箱体の上面板との間に画成される空間部を利用して第2の流体配管を形成することができる。また、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの箱体内に収めることができ、カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0019】請求項7の発明は、カウンタウェイトは少なくとも前面、後面、上面および下面を有する鋳造体によって形成し、第2の流体配管は鋳造体をなしたカウンタウェイトの内部を中空穴として左、右方向に延びて形成され、両端側が前記前面に流入側接続口、流出側接続口として開口した中空通路によって構成したことにある。

【0020】このように構成したことにより、カウンタウェイトを鋳造するときに第2の流体配管を構成する中空通路を一緒に成形することができ、該第2の流体配管を容易に設けることができる。また、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの外形寸法内に収めることができ、カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0021】請求項8の発明は、カウンタウェイトは少なくとも前面、後面、上面および下面を有する鋳造体によって形成し、第2の流体配管は、前記カウンタウェイトの前面に左、右方向に延びて凹設された凹陥溝と、該凹陥溝との間に通路を画成し、左、右方向の両側に該通路に連通する流入側接続口、流出側接続口が設けられた閉塞板によって構成したことある。

【0022】このように構成したことにより、カウンタウェイトの成形時に前面に凹設された凹陥溝を覆うように閉塞板を固着することにより、第2の流体配管を容易に設けることができる。しかも、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの外形寸法内に収めることができ、カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0023】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態による建設機械として油圧ショベルを例に挙げ、添付図面に従って詳細に説明する。

【0024】まず、図1ないし図4は本発明の第1の実施の形態を示すに、1は下部走行体、2は該下部走行体1上に旋回可能に搭載された上部旋回体で、該上部旋回体2は、構造体をなす旋回フレーム3と、該旋回フレーム3の前部左側に設けられたキャブ4と、前記旋回フレーム3の後側に取付けられた後述のカウンタウェイト17とによって大略構成され、前記旋回フレーム3の前側には土砂の掘削作業等を行なうための作業装置5が設けられている。

【0025】ここで、旋回フレーム3は、図2に示す如く、ほぼ平行に配設されたセンタフレーム6、6（片方のみ図示）と、該各センタフレーム6の左、右方向の外側に設けられたサイドフレーム7、7（片方のみ図示）と、各センタフレーム6と各サイドフレーム7とを連結する複数本の張り出しビーム8、8等とによって構成され、旋回フレーム3の下側はアンダカバー9によって覆われている。

【0026】10は旋回フレーム3上に設けられ、該旋回フレーム3上に機械室を画成する建屋カバーで、該建屋カバー10は、サイドフレーム7、7に沿って前後方向に延び上向きに立設された側面カバー11、11と、該各側面カバー11の上端側を覆うように水平方向に延び中央に開口部12Aが形成された上面カバー12とによって大略構成されている。

【0027】13は上面カバー12に設けられたエンジンカバーで、該エンジンカバー13は、開口部12Aを開閉するもので、上面カバー12に回動可能に取付けられている。

【0028】14は建屋カバー10内に設けられ、各センタフレーム6の後側に左、右方向に延びる横置き状態に搭載されたエンジンで、該エンジン14の左側には冷却ファン15が取付けられ、右側には油圧ポンプ（図示せず）が取付けられている。ここで、前記冷却ファン15は、エンジン14によって回転駆動されることにより、建屋カバー10内に外気を吸込み、この外気を冷却風としてインタクーラ24、オイルクーラ21、ラジエータ20に向け順次供給するものである。

【0029】16はエンジン14に設けられたターボ過給器16で、該ターボ過給器16は、駆動側のタービン

室がエキゾーストマニホールドとマフラに接続され、従動側のタービン室が後述の流入配管28とエアクリーナからの吸気ホース（いずれも図示せず）に接続されている。そして、ターボ過給器16は、エンジン14の排気によって回転駆動されることにより、圧縮した空気をインタクーラ24等を介してエンジン14の吸気側に供給するものである。

【0030】17は旋回フレーム3の各センタフレーム6後端部に取付けられ、作業装置5とバランスをとるカウンタウェイトで、該カウンタウェイト17は、図3、図4に示すように、ほぼ平坦に形成された前面板18A、後方に向けて突出した円弧状の後面板18B、左、右の側面板18C、18C、上面板18Dおよび下面板18Eによって中空に形成された箱体をなすウェイトカバー18と、該ウェイトカバー18内に充填されたコンクリート、切削金属片（切粉）等の重量物19とによって構成されている。また、ウェイトカバー18の前面板18Aには、上部側寄りで左、右方向に離間した位置に取付穴18A1、18A1が形成されている。

【0031】20は建屋カバー10内に設けられた熱交換器をなすラジエータで、該ラジエータ20は、冷却ファン15の左側に隣接する位置で、図3に示す如く、旋回フレーム3の張り出しビーム8、8上にボルト止めされている。そして、ラジエータ20は、エンジン14のウォータージャケット（図示せず）に接続され、該エンジン14との間で循環するエンジン冷却水の熱を熱交換して冷却風中に放出し、このエンジン冷却水を冷却するものである。

【0032】21はラジエータ20の左側に重ねて取付けられた第1の熱交換器をなすオイルクーラで、該オイルクーラ21は、下部走行体1、作業装置5等のアクチュエータから戻り配管（図示せず）を介して供給される作動油の熱を放出して冷却するもので、冷却された作動油は作動油タンク（図示せず）に戻される。

【0033】22はオイルクーラ21の左面に重ねて設けられた防塵ネットで、該防塵ネット22は、比較的大きな塵埃等の異物がオイルクーラ21、ラジエータ20に詰って堆積するのを防止するもので、オイルクーラ21の前、後方向（幅方向）両端部に上、下方向に延びて設けられた断面略L字状のガイド部材23、23間に保持されている。

【0034】24はオイルクーラ21、ラジエータ20を挟んでエンジン14と反対側に位置してオイルクーラ21の厚さ方向に重ねて設けられた第2の熱交換器としてのインタクーラで、該インタクーラ24は、後側（カウンタウェイト17側）に位置する流入側タンク25と、前側（キャブ4側）に位置する流出側タンク26と、該各タンク25、26間に設けられ、複数本の細管、放熱フィンからなる放熱部27とによって大略構成されている。また、流入側タンク25には、流入側の接

統配管25Aが後側に延びて設けられ、該接続配管25Aは後述の流入配管28の流出側接続口28Bに接続されている。

【0035】さらに、流出側タンク26は、オイルクラ21、ラジエータ20よりも前側に突出し、その突出部位にはオイルクラ21、ラジエータ20の幅方向前側をエンジン14側に延びる流出側の接続配管26Aが設けられている。

【0036】そして、インタクーラ24は、エンジン14のターボ過給器16によって圧縮された空気を流入配管28を介して流入側タンク25内に流入させ、この圧縮空気を放熱部27で流通させることによって冷却するもので、冷却された圧縮空気は流出側タンク26から流出配管29を介してエンジン14のインテイクマニホールドに供給される。

【0037】28はエンジン14のターボ過給器16とインタクーラ24とを接続する第2の流体配管をなす流入配管で、該流入配管28は、図4に示す如く、カウンタウェイト17の外形をなすウェイトカバー18の前面板18A内面に沿うように左、右方向に向けて延びて設けられている。また、流入配管28の左、右両側は前側に屈曲し、前面板18Aの各取付穴18A1をそれぞれ貫通して流入側接続口28A、流出側接続口28Bを形成している。

【0038】このように、流入配管28は、ほぼコ字状に折り曲げられたパイプ部材をカウンタウェイト17を利用して設けることにより、流入側接続口28A、流出側接続口28Bを除く殆どの部分がカウンタウェイト17内に収まっている。なお、流入配管28は、その両側が前面板18Aの取付穴18A1に挿通された状態で、該前面板18Aに溶接等の固着手段によって固着されている。

【0039】そして、流入配管28は、上流側となる右側に位置する流入側接続口28Aが後述のゴムホース30を介してターボ過給器16の従動側のターピン室に接続され、下流側となる左側に位置する流出側接続口28Bが流入側タンク25の接続配管25Aにゴムホース30を介して接続されている。これにより、流入配管28は、ラジエータ20、オイルクラ21の幅方向後側を通るように取り回されている。

【0040】29はインタクーラ24とエンジン14とを接続する第1の流体配管をなす流出配管で、該流出配管29は上流側が流出側タンク26の接続配管26Aにゴムホース30を介して接続され、他端側がエンジン14のインテイクマニホールドに接続されている。そして、流出配管29は流入配管28の反対側に位置し、ラジエータ20、オイルクラ21の幅方向前側を通して取り回されている。

【0041】30、30、…はターボ過給器16と流入配管28の流入側接続口28Aとの間、インタクーラ2

4の流入側タンク25の接続配管25Aと流入配管28の流出側接続口28Bとの間、流出側タンク26の接続配管26Aと流出配管29との間等を接続し、これらの部材と別個に設けられた管体としての複数のゴムホースで、該各ゴムホース30は可撓性を有する管として形成されている。そして、ゴムホース30は、例えば作業時、組立時等にインタクーラ24の接続配管25Aと流入配管28の流入側接続口28Aとの間に相対的なずれが生じた場合でも、それに応じて変形することによりこのずれを許容することができる。

【0042】本実施の形態による油圧ショベルは上述の如き構成を有するもので、エンジン14によって油圧ポンプを駆動することにより、該油圧ポンプから下部走行体1、作業装置5の各アクチュエータに圧油を供給し、下部走行体1を走行させたり、作業装置5を俯仰動させて土砂の掘削作業を行なったりする。

【0043】一方、エンジン14の運転時には、該エンジン14によって冷却ファン15が回転駆動され、外部の空気を冷却風として建屋カバー10内に吸込み、この冷却風をインタクーラ24、オイルクラ21、ラジエータ20に順次供給し、吸入空気、作動油、エンジン冷却水を冷却する。

【0044】一方、冷却風中には多くの塵埃等の異物が混入しているが、この異物を防塵ネット22によって捕らえることができ、塵埃等の堆積によってオイルクラ21、ラジエータ20による冷却効率が低下するのを防止することができる。しかも、防塵ネット22に捕らえた異物を除去する場合には、防塵ネット22を上方に引き抜くことにより異物の除去作業を容易に行なうことができる。

【0045】このように本実施の形態によれば、エンジン14のターボ過給器16とインタクーラ24の流入側タンク25とを接続する流入配管28をカウンタウェイト17を利用して設けると共に、流入配管28をカウンタウェイト17内にほぼ収める構成としている。これにより、ラジエータ20、オイルクラ21とカウンタウェイト17との間から配管をなくすことができ、カウンタウェイト17をラジエータ20、オイルクラ21に近接して配設できるから、上部旋回体2の前、後方向の長さ寸法を短くして旋回半径を小さくすることができ、油圧ショベルの作業性能を向上することができる。

【0046】しかも、流入配管28をラジエータ20、オイルクラ21の幅方向後側を通して取り回し、流出配管29をラジエータ20、オイルクラ21の幅方向前側を通して取り回しているから、ラジエータ20、オイルクラ21の上側から配管をなくすことができる。これにより熱交換装置全体の高さ寸法を低くすることができるから、建屋カバー10のエンジンカバー13を低くすることができ、キャブ4からの後方視界を良好にして、作業性、安全性を高めることができる。

【0047】また、流入配管28をカウンタウェイト17内を通すことにより、流入配管を固定するためのクランプ等を省略することができ、組立作業性の向上、コストの低減を図ることができる。

【0048】さらに、流入配管28内を流通する圧縮空気の熱を大きな表面積を有するカウンタウェイト17側に逃すことができるから、圧縮空気を効率よく冷却することができる。また、インタクーラ24を小型化することができる。

【0049】また、流入配管28は1本のパイプ部材を折り曲げて形成しているから、該流入配管28は、カウンタウェイト17内の所望の位置に固着するだけで容易に配設することができ、組立作業性の向上、コストの低減等を図ることができる。

【0050】一方、防塵ネット22を清掃するときには、簡単に防塵ネット22を引き抜くことができ、防塵ネット22の清掃作業を容易にして、作業性を向上することができる。

【0051】次に、図5および図6は本発明の第2の実施の形態を示すに、本実施の形態の特徴は、第2の流体配管は、箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられた流入側接続口、流出側接続口と、箱体内を左、右方向に延びて設けられ、前面板内面との間に該流入側接続口と流出側接続口とを連通する連通路を画成した枠部材とによって構成したことにある。なお、本実施の形態では、前述した第1の実施の形態と同一の構成要素に同一の符号を付し、その説明を省略するものとする。

【0052】41は第1の実施の形態による流入配管28に代えて用いられた本実施の形態による第2の流体配管をなす流入配管で、該流入配管41は、図6に示す如く、ウェイトカバー18の前面板18A外面に左、右方向に離間して設けられた接続口をなす流入側接続筒42、流出側接続筒43と、ウェイトカバー18A内面を左、右方向に延びて設けられ、前面板18A内面に固着された断面コ字状の角枠部材44とによって構成され、該角枠部材44は、前面板18A内面との間に前記流入側接続筒42と流出側接続筒43とを連通する連通路45を画成している。

【0053】そして、流入配管41は、流入側接続筒42がエンジン14のターボ過給器16に接続され、流出側接続筒43がインタクーラ24の流入側タンク25に接続される。

【0054】かくして、このように構成される本実施の形態においても、前述した第1の実施の形態とほぼ同様の作用効果を得ることができると、特に、本実施の形態では、カウンタウェイト17の一部をなすウェイトカバー18の前面板18Aを利用して流入配管41を容易に形成することができ、また、流入配管41を構成する部品形状を簡略化することができる。

【0055】次に、図7および図8は本発明の第3の実

10

20

30

40

50

施の形態を示すに、本実施の形態の特徴は、第2の流体配管は、箱体の上面板と重量物の上面との間に画成された空間部と、箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられ、該空間部に連通した流入側接続口、流出側接続口とによって構成したことにある。なお、本実施の形態では、前述した第1の実施の形態と同一の構成要素に同一の符号を付し、その説明を省略するものとする。

【0056】51は第1の実施の形態によるカウンタウェイト17に代えて用いられた本実施の形態によるカウンタウェイトで、該カウンタウェイト51は、前記第1の実施の形態によるカウンタウェイト17とほぼ同様に、前面板52A、後面板52B、左、右の側面板52C、52D、上面板52Dおよび下面板52Eからなる箱体としてのウェイトカバー52と、該ウェイトカバー52内に充填された重量物53とによって構成されている。

【0057】しかし、本実施の形態によるカウンタウェイト51は、前記ウェイトカバー52の前面板52Aに形成された左、右の取付穴52A1、52A1が、第1の実施の形態による取付穴18A1よりも上、下方向の上側に形成されている点と、重量物53の充填量が、図8に示すように第1の実施の形態による重量物19と比較して少ない点で第1の実施の形態と相違している。

【0058】54は第1の実施の形態による流入配管28に代えて用いられた本実施の形態による第2の流体配管をなす流入配管で、該流入配管54は、ウェイトカバー52の上面板52Dと重量物53の上面53Aとの間に画成された空間部55と、ウェイトカバー52の前面板52Aに位置して取付穴52A1、52A1に固着され、該空間部55に連通した接続口をなす流入側接続筒56、流出側接続筒57とによって構成されている。

【0059】そして、流入配管54は、流入側接続筒56がエンジン14のターボ過給器16に接続され、流出側接続筒57がインタクーラ24の流入側タンク25に接続される。

【0060】かくして、このように構成される本実施の形態においても、前記各実施の形態とほぼ同様の作用効果を得ることができると、特に、本実施の形態では、重量物53の上面53Aとウェイトカバー52の上面板52Dとの間に形成される空間部55を利用して流入配管54を構成することができるから、流入配管54の構成を簡略化でき、組立作業性の向上し、製造コストを低減することができる。

【0061】次に、図9および図10は本発明の第4の実施の形態を示すに、本実施の形態の特徴は、カウンタウェイトは少なくとも前面、後面、上面および下面を有する鋳造体によって形成し、第2の流体配管は鋳造体をなしたカウンタウェイトの内部を中空穴として左、右方向に延びて設けられ、両端側が前記前面に流入側接続口、流出側接続口として開口した中空通路によって構成

したことにある。なお、本実施の形態では、前述した第1の実施の形態と同一の構成要素に同一の符号を付し、その説明を省略するものとする。

【0062】61は第1の実施の形態によるカウンタウェイト17に代えて用いられた本実施の形態によるカウンタウェイトで、該カウンタウェイト61は、前面61A、後面61B、左、右の側面61C、61C、上面61Dおよび下面61Eを有する鋳造体によって形成されている。ここで、鋳造体をなすカウンタウェイト61は、例えば鋳鉄を鋳型内で鋳込むことにより鋳造品として製造されている。

【0063】62は第1の実施の形態による流入配管28に代えて用いられた本実施の形態による第2の流体配管をなす流入配管で、該流入配管62は、図10に示すように、カウンタウェイト61の前面61Aの上部側寄りで左、右方向に離間して位置し、前側に向けて突出した接続口をなす流入側接続筒63、流出側接続筒64と、カウンタウェイト61の内部を中空穴として前面61Aに沿って左、右方向に延びて形成され、左、右両側が前側に屈曲してそれぞれ流入側接続筒63、流出側接続筒64内に開口した中空通路65とによって構成されている。

【0064】そして、流入配管62は、流入側接続筒63がエンジン14のターボ過給器16に接続され、流出側接続筒64がインタクーラ24の流入側タンク25に接続される。

【0065】かくして、このように構成される本実施の形態においても、前述した各実施の形態とほぼ同様の作用効果を得ることができるが、特に、本実施の形態では、カウンタウェイト61を成形するときに流入配管62と一緒に成形することができるから、より一層構成を簡略化でき、組立作業性の向上、製造コストの低減等を図ることができる。

【0066】次に、図11および図12は本発明の第5の実施の形態を示すに、本実施の形態の特徴は、カウンタウェイトは少なくとも前面、後面、上面および下面を有する鋳造体によって形成し、第2の流体配管は、カウンタウェイトの前面に左、右方向に延びて凹設された凹陥溝と、該凹陥溝との間に通路を画成し、左、右方向の両側に該通路に連通する流入側接続口、流出側接続口が設けられた閉塞板とによって構成したことにある。なお、本実施の形態では、前述した第1の実施の形態と同一の構成要素に同一の符号を付し、その説明を省略するものとする。

【0067】71は第1の実施の形態によるカウンタウェイト17に代えて用いられた本実施の形態によるカウンタウェイトで、該カウンタウェイト71は、前面71A、後面71B、上面71Cおよび下面71Dを有する鋳造体によって形成されている。ここで、本実施の形態によるカウンタウェイト71は、図12に示すように、

後面71Bが前面71Aの左、右両端まで延びる円弧をもって形成されており、これにより、第1の実施の形態に形成されていた側面（側面板）は省略されている。

【0068】72は第1の実施の形態による流入配管28に代えて用いられた本実施の形態による第2の流体配管をなす流入配管で、該流入配管72は、カウンタウェイト71の前面71Aの上部側寄りを左、右方向に延びて凹設された凹陥溝73と、該凹陥溝73を閉塞するよう前面71Aに固着され、該凹陥溝73との間に空気通路75を画成した閉塞板74とによって大略構成され、該閉塞板74には左、右方向の両側に位置し、前記空気通路75に連通すると共に前側に突出して接続口をなす流入側接続筒76、流出側接続筒77が一体的に設けられている。

【0069】そして、流入配管72は、流入側接続筒76がエンジン14のターボ過給器16に接続され、流出側接続筒77がインタクーラ24の流入側タンク25に接続される。

【0070】かくして、このように構成される本実施の形態においても、前述した各実施の形態とほぼ同様の作用効果を得ることができる。

【0071】なお、各実施の形態では、第2の熱交換器としてインタクーラ24を例に挙げて説明したが、本発明はこれに限らず、例えば第2の熱交換器として空気調和装置のコンデンサ等を適用してもよい。

【0072】また、図5、図6に示す第2の実施の形態では、枠部材として断面コ字状の角枠部材44を用いた場合を例に挙げて説明したが、これに替えて、例えば断面半円弧状の円枠部材、断面く字状の三角枠部材等の他の枠部材を用いてもよい。

【0073】また、図11、図12に示す第5の実施の形態では、鋳造体をなしたカウンタウェイト71の前面71Aに凹陥溝73を凹設し、前面71Aに該凹陥溝73を閉塞するよう閉塞板74を固着することにより流入配管72を形成した場合を例に挙げて説明したが、本発明はこの構成に限るものではなく、第5の実施の形態による流入配管72の構成を、例えば第1の実施の形態で述べたウェイトカバー18と重量物19とからなるカウンタウェイト17に適用してもよい。

【0074】この場合には、ウェイトカバー18の前面18Aにプレス加工、溶接加工等によって凹陥溝を形成し、前面18Aに該凹陥溝を閉塞するよう閉塞板74を固着する構成とすればよい。

【0075】また、図11、図12に示す第5の実施の形態では、カウンタウェイト71を前面71A、後面71B、上面71Cおよび下面71Dを有し、左、右の側面のない鋳造体によって形成した場合を例に挙げて説明したが、この構成を第1ないし第4の実施の形態のように、左、右の側面を有するカウンタウェイトに適用してもよい。

【0076】一方、第1ないし第4の実施の形態では、カウンタウェイト17, 51, 61は左、右の側面を有する形式のものを例示したが、第1ないし第4の実施の形態に上記第5の実施の形態と同様に左、右の側面がないカウンタウェイトを用いてもよい。

【0077】また、図1ないし図4に示す第1の実施の形態では、ターボ過給器16をエンジン14の後側に配置することにより、流出配管29が第1の流体配管として前側(キャブ4側)に配置され、流入配管28が第2の流体配管として後側(カウンタウェイト17側)に配置された場合を例に挙げて説明した。しかし、本発明はこのような配置に限るものではなく、エンジン14の配置が左、右で入れ替わった場合、即ちターボ過給器16が前側に配設された場合には、第1の流体配管となる流入配管28を前側に配置し、第2の流体配管となる流出配管29を後側に配置する構成とすればよい。なお、この構成は第2ないし第5の実施の形態にも同様に適用することができる。

【0078】さらに、各実施の形態では、建設機械として油圧ショベルを例に挙げて説明したが、本発明はこれに限るものではなく、例えばホイールローダ、油圧クレーン、ブルドーザ等の他の建設機械に適用してもよい。

【0079】

【発明の効果】以上詳述した通り、請求項1の発明によれば、ラジエータ、オイルクーラ等の第1の熱交換器の幅方向前側を通ってインタークーラ等の第2の熱交換器に接続された第1の流体配管と、カウンタウェイトを利用して設けられ、第1の熱交換器の幅方向後側を通って第2の熱交換器に接続された第2の流体配管とを備えている。これにより、第2の流体配管を第1の熱交換器の幅方向後側を通して第2の熱交換器に接続した場合でも、第1の熱交換器とカウンタウェイトとの間には配管を通すためのスペースを必要としないから、カウンタウェイトを第1の熱交換器の幅方向後側に近接して配置することができ、建設機械の車体長さを短くして建設機械の作業性能向上することができる。

【0080】また、熱交換器等の配管の取り回し、他の機器の配置を余裕をもってレイアウトすることができるから、組立作業性、メンテナンス作業性を向上でき、また製造コストを低減することができる。

【0081】請求項3の発明によれば、第2の熱交換器と第2の流体配管の流入側、流出側との間は、別個の管体を用いて接続しているから、組立時には第2の熱交換器と第2の流体配管とを管体を介して容易に接続することができ、組立作業性を向上することができる。

【0082】請求項4の発明によれば、カウンタウェイトを、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物とによって構成し、第2の流体配管は前記箱体を左、右方向に延びて設けられ、両端側が前記箱体の前面板に流入側接続口、流出側接続口として開口したパイ

プ部材によって構成しているから、第2の流体配管を形成するパイプ部材のほぼ全体をカウンタウェイトの箱体内に収めることができ、該カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0083】請求項5の発明によれば、カウンタウェイトを、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物とによって構成し、第2の流体配管を、前記箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられた流入側接続口、流出側接続口と、前記箱体内を左、右方向に延びて設けられ、前面板内面との間に該流入側接続口と流出側接続口とを連通する連通路を画成した枠部材とによって構成しているから、箱体の前面板を利用して枠部材との間に連通路を画成することができ、第2の流体配管を容易に形成することができる。また、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの箱体内に収めることができ、該カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0084】請求項6の発明によれば、カウンタウェイトを、中空に形成された箱体と、該箱体内に充填された重量物とによって構成し、第2の流体配管は、前記箱体の上面板と前記重量物の上面との間に画成された空間部と、前記箱体の前面板外面に左、右方向に離間して設けられ、該空間部に連通した流入側接続口、流出側接続口とによって構成しているから、箱体内に重量物を充填したときに該重量物の上面と箱体の上面板との間に画成される空間部を利用して第2の流体配管を形成することができ、第2の流体配管を容易に形成することができる。また、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの箱体内に収めることができるから、該カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0085】請求項7の発明によれば、カウンタウェイトを少なくとも前面、後面、上面および下面を有する鋳造体によって形成し、第2の流体配管は鋳造体をなしたカウンタウェイトの内部を中空穴として左、右方向に延びて形成され、両端側が前記前面に流入側接続口、流出側接続口として開口した中空通路によって構成しているから、カウンタウェイトを鋳造するときに第2の流体配管を構成する中空通路を一緒に形成することができ、該第2の流体配管を容易に設けることができる。また、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの外形寸法内に収めることができ、該カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【0086】請求項8の発明によれば、カウンタウェイトを少なくとも前面、後面、上面および下面を有する鋳造体によって形成し、第2の流体配管を、前記カウンタウェイトの前面に左、右方向に延びて凹設された凹陥溝と、該凹陥溝との間に通路を画成し、左、右方向の両側に該通路に連通する流入側接続口、流出側接続口が設けられた閉塞板とによって構成しているから、カウンタウ

ニイトの前面に凹設された凹陥溝を覆うように閉塞板を固着することにより、第2の流体配管を容易に設けることができる。しかも、第2の流体配管のほぼ全体をカウンタウェイトの外形寸法内に収めることができ、カウンタウェイトを第1の熱交換器に近接した位置に配設することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態に適用される油圧ショベルを示す正面図である。

【図2】上部旋回体の後部側に位置する建屋カバー内の要部をエンジンカバーを省略した状態で示す要部平面図である。

【図3】建屋カバー、カウンタウェイト、ラジエータ、オイルクーラ、インタクーラ等を図2中の矢示III-I方向からみた断面図である。

【図4】流入配管とカウンタウェイトを図3中の矢示IV-IV方向からみた断面図である。

【図5】本発明の第2の実施の形態による流入配管をカウンタウェイトと一緒に示す断面図である。

【図6】流入配管とカウンタウェイトを図5中の矢示VI-VI方向からみた断面図である。

【図7】本発明の第3の実施の形態による流入配管とカウンタウェイトを示す断面図である。

【図8】流入配管とカウンタウェイトを図7中の矢示II-VIII方向からみた断面図である。

【図9】本発明の第4の実施の形態による流入配管とカウンタウェイトを示す断面図である。

【図10】流入配管とカウンタウェイトを図9中の矢示X-X方向からみた断面図である。

【図11】本発明の第5の実施の形態による流入配管とカウンタウェイトを示す断面図である。

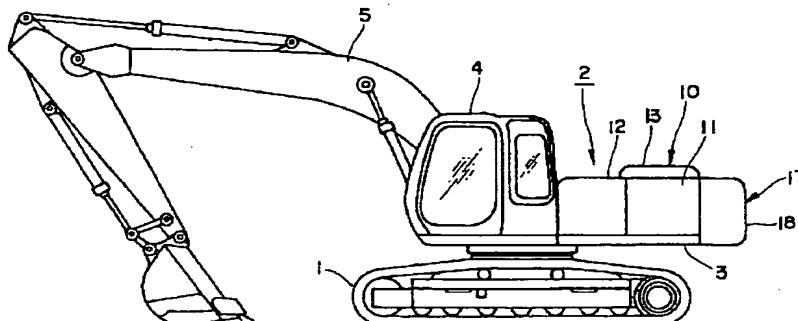
【図12】流入配管とカウンタウェイトを図11中の矢

示XII-XII方向からみた断面図である。

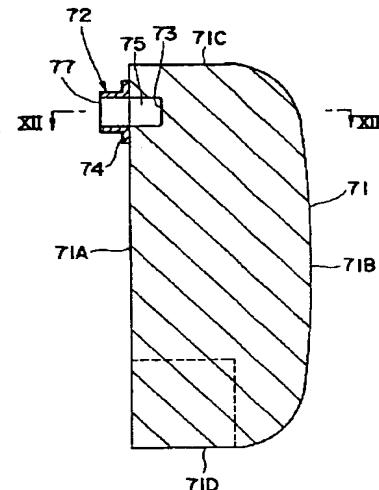
【符号の説明】

- 3 旋回フレーム
- 5 作業装置
- 14 エンジン
- 16 ターボ過給器
- 17, 51, 61, 71 カウンタウェイト
- 18, 52 ウェイトカバー
- 18A, 52A 前面板
- 18D, 52D 上面板
- 19, 53 重量物
- 20 ラジエータ（第1の熱交換器）
- 21 オイルクーラ（第1の熱交換器）
- 24 インタクーラ（第2の熱交換器）
- 28, 41, 54, 62, 72 流入配管（第2の流体配管）
- 28A 流入側接続口
- 28B 流出側接続口
- 29 流出配管（第1の流体配管）
- 30 ゴムホース（管体）
- 42, 56, 63, 76 流入側接続筒（流入側接続口）
- 43, 57, 64, 77 流出側接続筒（流出側接続口）
- 44 角枠部材（枠部材）
- 45 連通路
- 53A 上面
- 55 空間部
- 65 中空通路
- 73 凹陥溝
- 74 閉塞板
- 75 空気通路

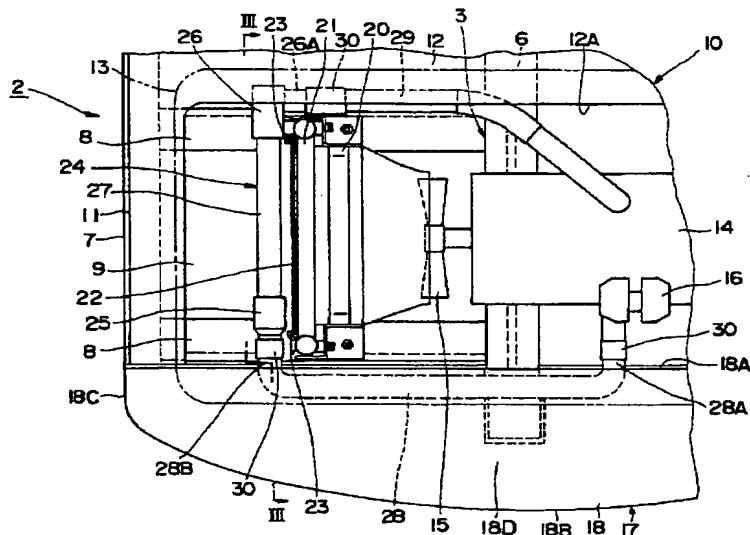
【図1】



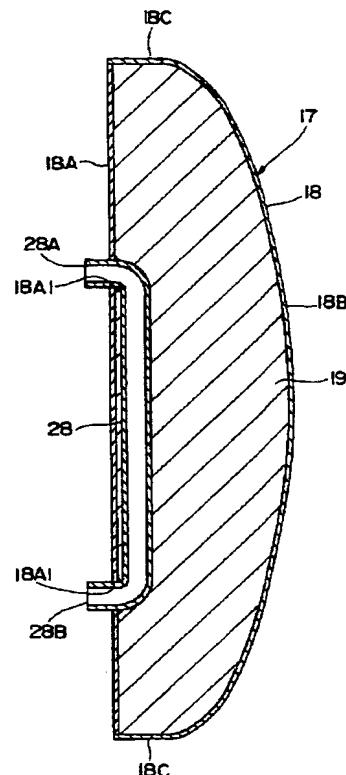
【図11】



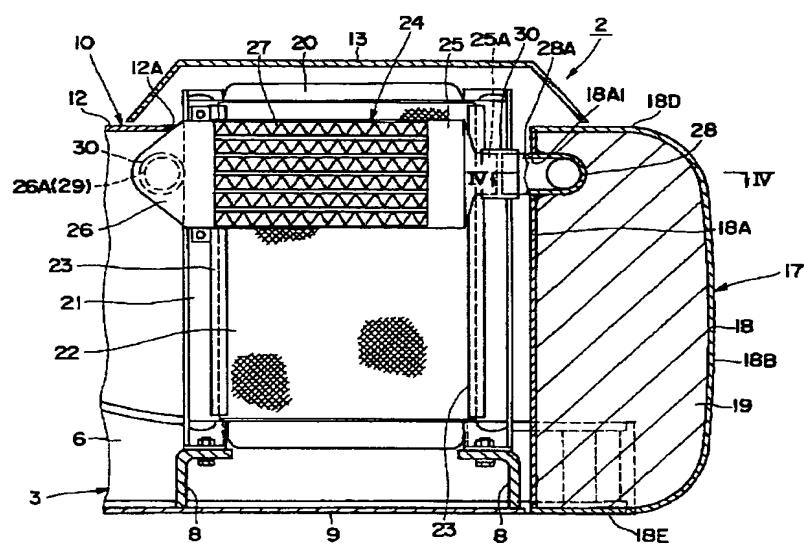
【図2】



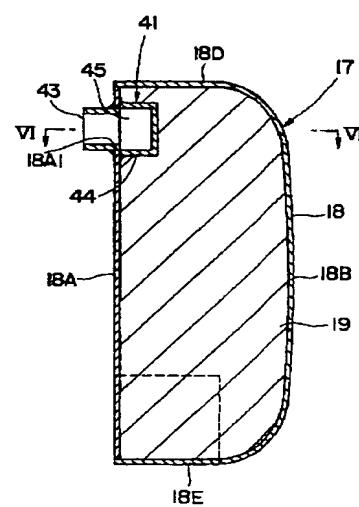
【図4】



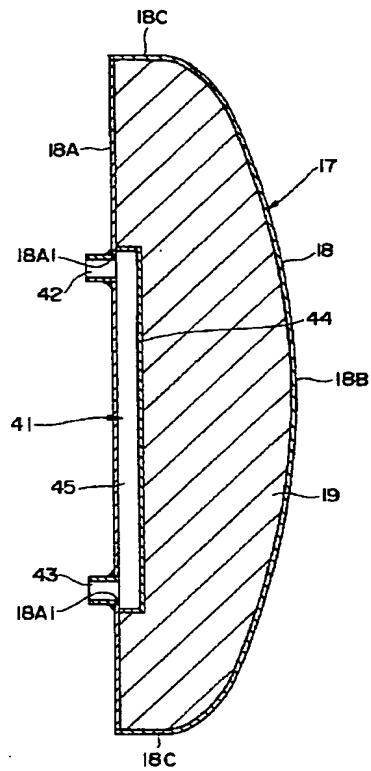
【図3】



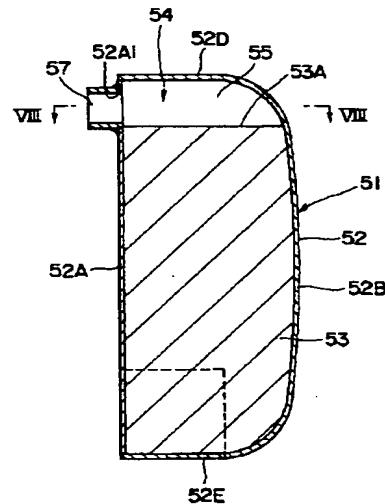
【図5】



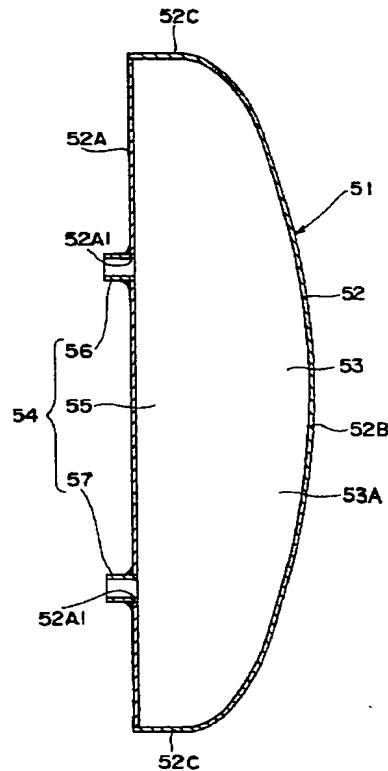
【図6】



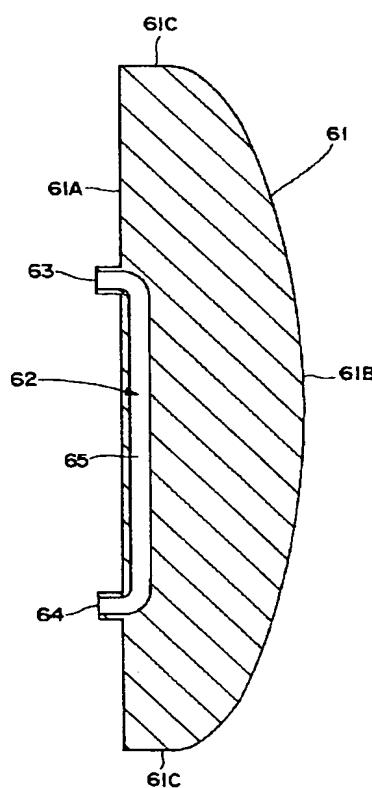
【図7】



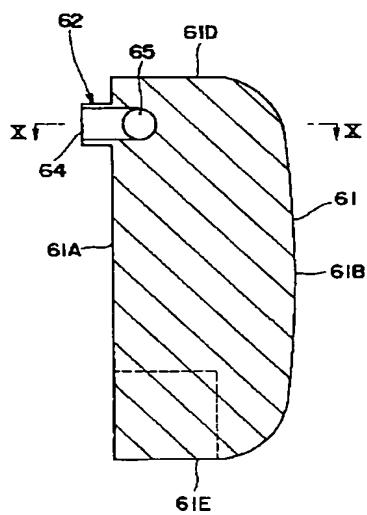
【図8】



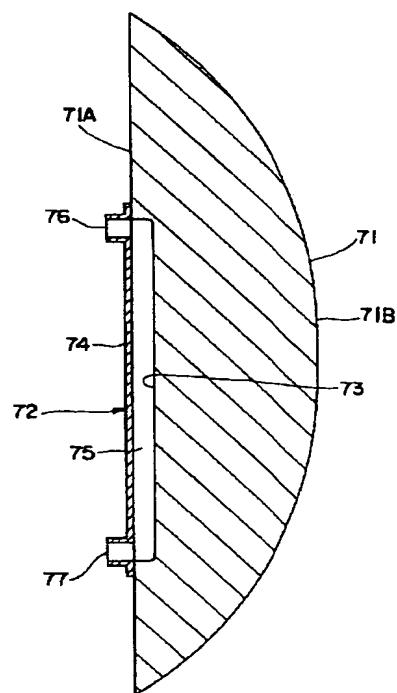
【図10】



【図9】



【図12】



フロントページの続き

(72) 発明者 多原 晃司
茨城県土浦市神立町650番地 日立建機株
式会社土浦工場内

(72) 発明者 川崎 浩二
茨城県土浦市神立町650番地 日立建機株
式会社土浦工場内
F ターム(参考) 3D035 CA25 CA27
3D038 AA10 AB09 AC02 AC25